



東日本大震災から7年、

いまだ届かぬ声がここに――

# Life

ドキュメンタリー映画[ライフ]

## 生きてゆく

出演：上野敬幸

上野貴保 上野倅史生 木村紀夫

監督・撮影・編集：笠井千晶(Rain field Production) 音楽：Steve Pottinger 題字：優和恵  
イメージ画：小原風子 企画：想い願うプロジェクト 制作：Rain field Production

©2017 Rain field Production 2017年 115分 16:9 カラー 日本

ドキュメンタリー映画  
**Life** ー生きてゆくー

**福岡県では初上映会**

入場料 500円

事前予約不要

日時 2022年 **3月6日** (日)

午後1時10分開場

午後1時30分開会 (上映時間115分)

会場 サンレイクかすや多目的ホール

映画「Life生きてゆく」上映会実行委員会 主催



# これは、遺された 「一軒の家」をめぐる ある家族の “命”の物語。



2011年3月11日午後3時40分  
福島県沿岸に押し寄せた津波、  
そして原発事故—。  
見捨てられた命が、そこにはあった。

舞台は、福島第一原子力発電所の北22km。津波に見舞われた福島県南相馬市萱浜(かいはま)地区。消防団員の上野敬幸さんは両親と子ども2人を津波で流され、必死に捜索を続けていた。その最中、福島第一原発が爆発した。



「本当に助けて欲しいって  
思った時には、  
来なかったねえ、誰も—。」

捜索のため避難を拒んだ上野さん。その目に映ったのは、津波で一帯が根こそぎ流された故郷・萱浜に、唯一、遺った我が家だった。この「一軒の家」とともに、物語は紡がれていく—。



「天国のみんなに安心して欲しい。」—すべてが流された萱浜で再起を誓う上野さんは、一面に菜の花の種をまいた。一方、震災後に生まれた娘と妻の3人になった家族には、それぞれの想いが交錯する。そこにはいつも亡くなった4人の存在があった。

「生きているから出来ること。  
生きているからこそ、  
やらなきゃいけないことがある。」

やがて、第一原発が立地する大熊町で、同じく行方不明の我が子を探す木村紀夫さんと出会う。“復興”の波に抗い続けた上野さん。避け続けてきた現実を前に、ついに苦渋の決断を下す。そして5年9ヶ月後、訪れた奇跡の瞬間とは—。



## 映画「Life」からのメッセージ

撮影開始から5年半をかけて完成したこの映画は、津波と原発事故がもたらした福島の“知られざる悲しみ”を伝えます。ゆっくりと乗り越えるように積み、前を向く上野さん一家。その姿は、私たちに問いかけます。家族とは何か—、そして、生きることは—。



監督 笠井千晶 ーついでに



新型コロナウイルスの影響により予告なく中止させていただく場合があります  
上映会の実施・中止などの情報については  
弁護士法人奔流(ほんりゅう)のホームページにてお知らせいたします  
ご来場前にホームページにて開催の有無をご確認ください

お問い合わせ先：092-719-0885 (弁護士法人奔流)

